

単元名 When is your birthday?

(NEW HORIZON ELEMENTARY English Course 5 Unit 2)

単元の目標

自分のことを伝えたり、相手のことをよく知ったりするために、誕生日やほしいものなどについて、短い話を聞いてその概要が分かったり、伝え合ったりできる。

学習指導要領における関係する領域別目標

「聞くこと」イ

「話すこと[やり取り]」イ

「書くこと」ア



◆誕生日に欲しいものをなどについて聞き取ったり、尋ねたり答えたりすることができる。

○Small Talk(好きな動物)

○相手が欲しいものについて尋ねたり答えたりする。

○ALTと指導者とのやり取りを聞き、聞き取ったことをワークシートに記入する。さらに加えて質問したいことを書く。

◆誕生日に欲しいものをなどについて聞き取ったり、尋ねたり答えたりすることができる。

「聞くこと」の記録に残す評価

ALTに喜んでもらえる誕生日カードを作るために、誕生日や欲しいものなどの具体的な情報を聞き取り、もっと詳しく聞きたい情報について、適切な質問を書いている。(行動観察・ワークシート記述分析)

「聞くこと」の記録に残す評価

Unit 2 **When is your birthday?**

5年()組 ()番 Name

ジョセフ先生に喜んでもらえる 誕生日カードを贈ります。

二人の話を聞いて、ジョセフ先生について分かったことを書きましょう。

① ジョセフ先生の誕生日は 何月 何日でしょう。

月 日

② ジョセフ先生が 誕生日に欲しいものは 何ですか。2つに○を付けましょう。

()

()

()

()

()



③ ジョセフ先生に喜んでもらえる誕生日カードを贈ることにします。

2人の会話をもとに、ジョセフ先生のことを もっと くわしく知るために、

あなたなら どんな質問をしますか。



「聞くこと」の記録に残す評価

① ジョセフ先生の誕生日は 何月 何日でしょう。

月 日

② ジョセフ先生が 誕生日に欲しいものは 何ですか。2つに〇を付けましょう。

()



七
七

()



()



()



()



③ ジョセフ先生に喜んでもらえる誕生日カードを贈ることにします。+

2人の会話をもとに、ジョセフ先生のことを もっと くわしく知るために、+

あなたなら どんな質問をしますか。+



単元テスト例

< 「聞くこと」 「知識・技能」 >

音声を聞いて、登場人物とその人が欲しい物とを線で結びましょう。



Hana



Gilberto



Aoi



単元テスト例

「聞くこと」

音声を聞いて、登場人物とその人が欲しい物とを線で結びましょう。



②育成を目指す資質・能力の明確化(p.3)

このため「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、ア「何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」の習得)」、イ「理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)」、ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)」の三つの柱に整理するとともに、各教科等の目標や内容についても、この三つの柱に基づく再整理を図るよう提言がなされた。

3 育成を目指す資質・能力(第1章第1の3)(p.34)

そのためには、「何を学ぶか」という教育の内容を重視しつつ、児童がその内容を既得の知識及び技能と関連付けながら深く理解し、他の学習や生活の場面でも活用できる、生きて働く知識となることを含め、その内容を学ぶことで児童が「何ができるようになるか」を併せて重視する必要がある、児童に対してどのような資質・能力の育成を目指すのかを指導のねらいとして設定していくことがますます重要となる。

(p.36)

知識については、児童が学習の過程を通して**個別の知識**を学びながら、そうした**新たな知識が既得の知識及び技能と関連付けられ**、各教科等で扱う**主要な概念を深く理解し**、**他の学習や生活の場面でも活用できるような確かな知識**として習得されるようにしていくことが重要となる。また、芸術系教科における知識は、一人一人が感性などを働かせて様々なことを感じ取りながら考え、自分なりに理解し、表現したり鑑賞したりする喜びにつながっていくものであることが重要である。教科の特質に応じた学習過程を通して、知識が**個別の感じ方や考え方等に応じ**、**生きて働く概念**として習得されることや、**新たな学習過程を経験することを通して更新されていく**ことが重要となる。



第3節 教育課程の実施と学習評価

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善(p.78)

主体的・対話的で深い学びの実現を目指して授業改善を進めるに当たり、特に「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」である。各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「見方・考え方」は、**新しい知識及び技能を既にもっている知識及び技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり**、思考力、判断力、表現力等を豊かなものとしたり、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりするために重要なものであり、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが重要である。

2 学習評価の充実

(1) 指導の評価と改善(第1章第3の2の(1))(p.93)

今回の改訂では、各教科等の目標を資質・能の三つの柱で再整理しており、平成28年12月の中央教育審議会答申において、目標に準拠した評価を推進するため、観点別学習状況の評価について、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理することが提言されている。

その際、ここでいう「知識」には、個別の事実的な知識のみではなく、それらが相互に関連付けられ、さらに社会の中で生きて働く知識となるものが含まれている点に留意が必要である



第2章 外国語科の目標及び内容 第1節 外国語科の目標(p.70)

中央教育審議会答申にもあるとおり、**基礎的・基本的な知識**を着実に習得しながら、**既存の知識と関連付けたり組み合わせたりして**いくことにより、学習内容の深い理解と、**個別の知識の定着**を図るとともに、**社会における様々な場面で活用できる概念としていく**ことが重要となる。また、技能についても、一定の手順や段階を追って身に付く**個別の技能のみならず**、**獲得した個別の技能が自分の経験やほかの技能と関連付けられ**、**変化する状況や課題に応じて主体的に活用できる技能として習熟・熟達していく**ということが重要であり、



第2章 外国語科の目標及び内容 第1節 外国語科の目標(p.70)

「生きて働く『知識・技能』の習得」を重視している本目標での「外国語の音声や文字，語彙，表現，文構造，言語の働きなどについて，日本語と外国語との違いに気付き，これらの知識を理解する」とは，中学年の外国語活動の「外国語を通して，言語や文化について体験的に理解を深め，日本語と外国語との音声の違い等に気付く」に対応したものである。高学年の外国語科では，日本語との音声の違いにとどまらず，文字，語彙，表現，文構造，言語の働きなどについても日本語との違いに気付くこと，さらに，気付きで終わるのではなく，それらが外国語でコミュニケーションを図る際に活用される，生きて働く知識として理解されることを求めている。

第10節 外国語 第1 目標(p.156)

- (2) コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，身近で簡単な事柄について，聞いたり話したりするとともに，音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり，語順を意識しながら書いたりして，自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

第2編 (1)「内容のまとめ(五つの領域)ごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】

○「思考・判断・表現」のポイント

・「聞くこと」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分のことや身近で簡単な事柄についての簡単な語句や基本的な表現、日常生活に関する身近で簡単な事柄についての具体的な情報を聞き取ったり、日常生活に関する身近で簡単な事柄についての短い話の概要を捉えたりしている状況进行评估する。

・「読むこと」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、活字体で書かれた文字を識別し、その読み方(名称)を発音している状況や、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を読んで意味が分かっている状況进行评估する。

・「話すこと[やり取り]」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、指示、依頼をしたり、それらに応じている状況や、日常生活に関する身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ちなどを伝え合っている状況、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合っている状況进行评估する。

・「話すこと[発表]」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や自分のことについて話している状況、身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ちなどを話している状況进行评估する。

・「書くこと」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、大文字、小文字を活字体で書いている状況や、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写している状況、自分のことや身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書いている状況进行评估する。

第2編 (1)「内容のまとめ(五つの領域)ごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】

○「思考・判断・表現」のポイント(p.30)

・「聞くこと」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分のことや身近で簡単な事柄についての簡単な語句や基本的な表現、日常生活に関する身近で簡単な事柄についての具体的な情報を聞き取ったり、日常生活に関する身近で簡単な事柄についての短い話の概要を捉えたりしている状況を評価する。

・「読むこと」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、活字体で書かれた

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する。(p.9)

する事柄について、その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合っている状況を評価する。

・「話すこと[発表]」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常生活に関する身近で簡単な事柄や自分のことについて話している状況、身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ちなどを話している状況を評価する。

・「書くこと」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、大文字、小文字を活字体で書いている状況や、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写している状況、自分のことや身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書いている状況を評価する。